



「九千年の森をつくろう！」

～日本から世界へ～

編者：宮脇方式の森を発展させる会

発行所：(株)藤原書店

発行：初版 2022 年 4 月 30 日

本書の第 3 部「宮脇方式の森づくり活動」において、33 件の記事が掲載されています。その中で、進和学園「いのちの森づくり」に関連し、(株)研進の出縄貴史が寄稿した文章が掲載されています。(P.223～226)

「いのちの森づくり——〇〇から世界へ」、宮脇昭先生がご指導される植樹活動には、「〇〇から世界へ！」というサブタイトルが付されます。社会福祉法人進和学園の福祉工場「しんわルネッサンス」植樹祭（二〇〇六年四月、四八八八本）、生活介護施設「進和万田ホーム」植樹祭（二〇〇九年六月、三四四〇本）も同様でした。当初、「進和学園から世界へ」という副題が、地味な福祉施設にとって、あまりに大袈裟で不釣り合いに感じたものです。

進和学園における「いのちの森づくり」は、二〇〇六年秋、ボランティアの「まじえる会」の皆様の熱意あるご指導を受けて、湘南平（平塚市）で行ったドングリ拾いが最初です。主に知的障害のある方達の日中作業の一環として、ドングリや木の実を集め、ポット苗を栽培し始めました。ドングリから根が出て、やがて芽吹く様子を目の当たりにして、命の尊さや自然の大切さを学びました。

活動のシンボルとして「いのちの森づくり——進和学園

進和学園から世界へ！

——「いのちの森づくり」が日本の福祉を変える！——

株式会社 研進（障害者就労支援団体） 代表取締役 出縄貴史

から世界へ」のノボリを作成し、事あるごとに掲げるよう
になりました。全国植樹祭、湘南国際村、秦野市での植樹、
静岡県掛川市の時ノ寿の森における森林再生、東北被災地
や遠州灘における「いのちを守る森の防潮堤」等、私達が
育てた苗木も多数ご利用頂けるようになり、植樹イベント
には積極的に参加しました。福祉施設から外へ出て、大勢
の方々と触れ合い、交流する機会が生まれました。福祉の
世界は、どうしても閉鎖的で社会との断絶が生じてしまう



宮脇昭先生と湘南国際村めぐりの森にて。2014年11月23日

のですが、「森づくり」を通じた社会参加の拡がり、新
鮮な驚きでもありました。

進和学園の「どんぐりハウス」(圃場)には、宮脇先生



進和学園「どんぐりハウス」2018年4月16日

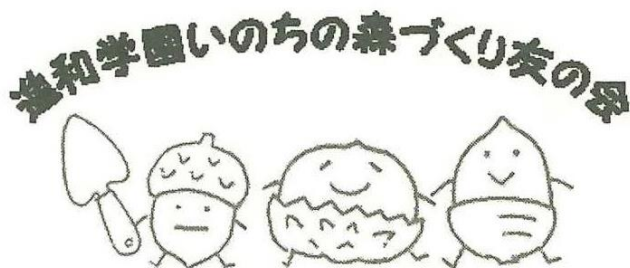


「どんぐりブラザーズと植樹大作戦——湘南国際村めぐりの森」2014年11月23日

が直々にご視察され、ご指導を仰いだこともあります。植樹活動に関係する多くの皆様が見学に来られましたが、何と、先生の一声で海外からJICA研修生を受け入れ、皆で英語のプレゼンテーションを練習してお迎えしたこともあります。

新聞やテレビの取材も受けました。日本テレビの特集では、宮脇先生の植樹に傾倒されていた小林麻央さんが学園へ来訪され、一緒にポット苗づくりを行うシーンが放映されたり、テレビ神奈川のニュース番組に学園メンバーが生出演して「いのちの森づくり」を紹介したこともあります。その傍らには、いつものノボリがありました。「進和学園から世界へ」というスローガンは、文字通りの輝きを発し始めたのです。

二〇〇八年、「いのちの森づくり友の会」基金を発足させ、福祉・環境・教育・労働の連携を目指す私達の活動の趣旨に賛同頂ける個人・団体・企業様より広くご支援を頂けるようになりました。皆様のご厚意による基金は、公共スペースへの苗木寄贈による植樹活動を支え、苗木の栽培や植樹地の保



全のための育樹（除草）作業を、福祉施設利用者の工賃に還元することを可能とし、障害者の自立・就労支援にも大きく貢献しています。

今では、進和学園のみならず、育苗連携をはじめ他の福祉施設との協働による「どんぐりブラザーズ」活動に発展、一二施設による「森づくりチーム」が活躍しています。障害のある方々にディーセント・ワーク（Decent Work：働き甲斐のある人間らしい仕事）をもたらしています。

「自然の森は色々な種類が混ざり合っている。仲の良いものだけ集めても駄目。人間社会も同じ。混ざる。混ざる。……」という宮脇先生の教えは、ハンデを有する人々にも勇気を与えてくれます。お互いの個性を尊重し切磋琢磨し、競争しながらも少し我慢して共に生きるという「多様性」と「共生」の理念を分かり易く伝えてくれます。

私達が推進する「いのちの森づくり」の使命は、「森づくり」を通じた「人づくり」です。

「進和学園から世界へ」というスローガンの延長線上には、「どんぐりブラザーズ」と描く未来が拓けるものと確信しています。「いのちの森づくり」が日本の福祉を変える！ 生意気ですが、その意気込みでチャレンジして参ります。